

神 經 内 視 鏡



WANPUG

子ども達に「**勇気**、**夢**として**笑顔**」を

神経内視鏡とは

古くからある脳神経外科の手術法の一つです。最近技術の進歩に伴い、再び盛んに用いられるようになりました。

頭の骨に、小さな穴をあけ、内視鏡を脳の水のスペース（脳室や嚢胞）に入れます。そこから中の様子を観察したり、膜を破ったり、腫瘍をとったりします。開頭手術に比べ侵襲が少なく、術後が楽とされています。



神経内視鏡による脳の観察について

神経内視鏡を用い脳室内の様子や嚢胞内の様子、脊髄髄腔の様子などを観察し治療法に役立てます。CTやMRIでは、判断の付きにくい細かいところがよくわかり、手術の方針決定に役立ったり、安全性に寄与したりします。



神経内視鏡による脳の処置について

神経内視鏡を用い、くも膜嚢胞や閉塞性水頭症に対し開窓（小さな穴をあける）を行い、髄液の交通をつけます。その結果、VPシャントやCPシャントを使わなくても治療できる場合があります。また、脳室系を経由することにより、第3脳室や脳幹周辺の腫瘍の生検術（腫瘍の病理検査目的に一部をとる手術）を安全に行うことができます。



VPシャント抜去術について

この手法を応用することにより、以前からあるVPシャントを一定の条件を満たした患者さんで、抜去する方向に持っていくことができる可能性があります。

当科では

日本神経内視鏡学会技術認定医が
手術に当たります。



神経内視鏡は、水（髄液）のスペースに入れます。このようなスペースのない病気では使えません。また内視鏡を覗きながら手術するため、できることに限度があり万能ではありません。急遽、開頭手術に切り替えなければならないこともあります。



地方独立行政法人 大阪府立病院機構

大阪母子医療センター

<脳神経外科>

〒594-1101 大阪府和泉市室堂町 840

患者支援センター TEL 0725-56-1220

FAX 0725-56-5605

2022.8 改訂